

表1 出題問題の検討

課題のある問題

問題	検討内容
<p>午前28</p> <p>Aちゃん(日齢10、女児)。在胎31週5日、体重1,570gで出生し、NICUに入院し経鼻的CPAP療法を行っている。ベッドサイドの呼吸心拍監視モニターのアラームが鳴ったため確認したところ、経皮動脈血酸素飽和$\langle SpO_2 \rangle > 65\%$、心拍数70/分、呼吸運動は停止して体動はなく、顔面にチアノーゼが認められた。</p> <p>初期対応で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胸骨圧迫 2. 酸素投与 3. 足底刺激 4. 気管内挿管 5. ブドウ糖液の静脈内注射 	<p>本問は未熟児無呼吸発作時の対応に関する知識を問う設問と捉えられる。正解は選択肢3足底刺激であり、知識があれば解答できる問題である。しかしながら、明快に解答を導き出すために必要な情報が十分提示されていない。南山堂 ベッドサイドの新生児の診かた 第2版 p204に「無呼吸発作はその病態から中枢性、閉塞性、混合性の3種に分けられる。(中略)無呼吸発作の治療は、まず二次性無呼吸発作か否かを鑑別し、二次性であれば原疾患の治療を行う。原発性無呼吸発作時には足底刺激による呼吸刺激、鼻腔、口腔吸引による気道開通、mask and bagの人工呼吸により対処する。」と記載されている。未熟児無呼吸発作に関する知識を問うのであれば、二次性無呼吸発作の可能性を否定する情報が必要である。すなわち、34週前後のLate pretermとするか、31週で出生であれば「生後2時間に肺サーファクタントが投与され、現在空気で経鼻CPAP療法を行っている」「経腸栄養も順調に進んでおり体重増加を認める」等、早産児である以外に無呼吸が生じる要因がないという情報を提示する必要がある。</p>
<p>午後34</p> <p>子宮内反症で正しいのはどれか。2つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 膀胱に尿がたまった状態で用手的整復を試みる。 2. 子宮底輪状マッサージが誘因となる。 3. 経産婦に比べて初産婦の発症が多い。 4. 子宮底は著しく上昇する。 5. 大量出血が起きる。 	<p>本問は、択二式の設問で正解は選択肢2、5である。選択肢5は明らかに正解といえる。選択肢2の子宮底輪状マッサージについては、「子宮底圧迫」とするか、あるいは「強い圧での」や「過度の」等の文言が加筆されるべきである。日本周産期・新生児医学会編 周産期診療ワークブック メディカル・ビュー社 p146には「子宮内反症の代表的な2つの病因として、底部に附着した胎盤に対する過剰な臍帯牽引と弛緩子宮に対する粗暴な子宮底圧迫がある」と記載されている。また、周産期医学必修知識第8版 東京医学社 p324には原因・危険因子として+「拙速な産科操作(過度な臍帯牽引・子宮底圧迫、胎盤用手剥離)」が挙げられている。さらに、医学書院 分娩助産学 第2版 p302では、発生の誘因として、「①胎盤用手剥離、②腹圧の異常増強;咳やくしゃみ、③分娩第3期の管理不十分;子宮底部の過剰圧迫(クレーデ胎盤圧出法)、臍帯の過度牽引、オキシシンの過剰投与など」が記載されている。子宮底輪状マッサージ時に「子宮底部に強い圧力が加われば」という条件付きで、「誘因となる」と考える。</p>